

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2004

3/1

NO.862 毎月1日発行



小田原市

教育都市宣言!

「小田原市教育都市宣言 その1」

小田原市教育都市宣言！

小田原市は、子どもたちのために、教育の行き届いたまちづくりを宣言します。

（関）教育総務課

☎ 331676



子どもにづらい時代とは

日本の教育と言えるもので、だれでもが参加できるものとして、江戸時代に始まった寺子屋があります。その昔、学問は限られた人たちのものでした。貧しい家に生まれ、親の家業を継ぐしか生きる手立てを持っていない子どもたちにとっては、学問にせいしむ余裕などありませんでした。それでも江戸時代の子どもたちは、「読み書き・そろばん」の習得に励むなど学習に意欲的で、明治維新前後には、75万人もの子どもたちが寺子屋で学んだと言われています。

日本の近代教育制度が確立したのは今から100年ほど前のことです。子どもは生まれると親の大きな愛にはぐくまれ、家族や地域の一員として育ちました。しかし、当時は現代と違い、医療技術が未熟で衛生環境が悪い時代です。子どもは生まれたからといって必ずしもそのまま成長するとは限りません。子どもたちは、教育の前に、まずしっかりと生きていくことが求められました。乳幼児死亡率の高い時期をいかにして生き抜くか、これが100年前の日本の現状でした。

さて、物質的に豊かになった現代はどうでしょうか。今ほど子どもが危機的状況に置かれている時代はありません。多発している青少年犯罪の増加と凶悪化、本来子どもが安心して学ぶ学校でさえ、心ない侵入者により子どもたちの殺傷事件が発生しています。

「子どもは大人は大人の社会の縮図である」とはよく言われていることです。子どもが大人（親）の背中を見て成長し、社会の仕組みを体得していく以上、子

小田原市教育都市宣言

小田原市民は、子どもたちが希望を持ち、健やかに成長してほしいと願っています。世界に目を開く地球市民であり、郷土の文化と伝統を誇りにしたいと思っています。一人ひとりが自立し、家庭、学校、地域が支え合う社会を築きたいと願っています。

小田原市と小田原市教育委員会は、市民のこうした思いや願いを実現するために、ここに教育の行き届いたまち、教育都市を宣言します。

- 1 一人ひとりが、尊い命です。心身ともに健康で思いやりのある人の育成に努めます。
- 2 家庭は、心を育みます。家族の絆を紡ぎ、人としての心がまえを養う家庭づくりを支えます。
- 3 学校は、生きる力を培います。児童生徒の確かな学力を育成し、社会の仕組みの基礎を教えます。
- 4 地域は、支え合いながら、繁栄します。青少年が社会の一員であることを自覚し、社会活動に参加できる地域づくりに努めます。
- 5 地球のすべてのものは、結ばれています。かけがえのない文化や伝統を受け継ぎ、自然や国際社会との交流を深める実践活動を進めます。



どもが危機的状況にあるということは、とりまなおさず、われわれ大人の社会が危機的状況にあるということです。

**燦爛と輝く未来のために、
今こそ教育都市宣言！**

このような現象は、成熟した社会によく見受けられますが、子どもたちは、夢にあふれた明日のまちづくりを担うかけがえのない宝です。「三つ子の魂百まで」とも言われていますが、今、教育を語ることは、未来の社会のあり方を語ることも等しいのです。

「まちづくりは、ひとづくり」であり、「ひとづくりは、まちづくり」です。「世界にきらめく明日の1000年都市おだわら」が、地方分権の大きな流れを先取りし、将来を見据えた明確なビジョンを20万市民に示すために、子どもたちの毎日が安全で安心であり、燦爛と輝く希望に満ちたものとするために、今ここで、小田原市は高らかに教育都市を宣言します。

小田原市教育都市宣言式を開催

市は、子どもたちの健全な育成のために、皆さんとともに考え、先頭に立つて行動するため、教育に対する基本的な姿勢を示させていただきます。

日時 3月19日(金)14時～16時

(開場13時30分)

場所 中央公民館ホール

内容 ①宣言式

②講演 横浜国立大学教授

高木 秀明さん

新たな課題に向けて

教育都市宣言をした本市の課題、新たな取り組みを紹介します。

●学校教育課 ☎331684



「学校で…」 学校教育の 取り組み

学区審議会

今、いろいろなまちで学区の見直しについて、盛んに議論がなされています。東京都品川区では、学区を廃止し、子どもたちが学校を自由に選択できるような仕組みを作りました。

しかし、学区の見直しには、自由に学校を選べるというメリットがある反面、地域に根ざした教育を行うことができなくなるのでは、という懸念もあります。

本市でもこれらの状況を踏まえ、昨年11月に住民組織の代表、学校関係者、学識経験者、公募市民など13人の委員からなる学区審議会を設置しました。

そこでは、学校選択制を視野に入れた学区制度のあり方について、市民の皆さんのご意見なども取り入れながら検討し、市に答申を提出します。市はその答申を受け、今後の方向性や具体策を決めていきます。

なお、現在でも「市内で転居したが、もうすぐ卒業なので今通学している学校で卒業したい」など、一定の許可基準に該当する場合は、指定された学校を変更できる指定変更制度を実施しています。



次回の学区審議会(予定)
日時 3月15日(月)9時30分～11時30分
場所 市役所4階・議会会議室
※傍聴ができます。希望される方は会議の15分前から開催場所で先着順に受け付けます。

学校二学期制

現在の二学期にあたる10月中旬に、数日の「秋休み」をはさみ、学期を前期と後期の二つに分ける学校「二学期制」「完全学校週五日制」で毎週土曜日が休みとなることから、学校の授業時間数が減り、学力低下をあやぶむ声が出るようになっています。

学校二学期制は、学校週五日制のメリットも残しつつ、授業時間を確保し、窮屈になった教育課程を見直すなど



の期待が込められた新しい考え方です
 (二期制については、広報おだわら11月1日号で詳しく紹介しています)
 市では、市民のかたにさまざまなご意見をいただきながら、「二期制について検討していきたい」と考えています。そこで保護者や地域のかた、教職員から幅広いご意見をいただくため、1月10日(土)に二期制についての懇談会を開きました。懇談会には、午前・午後の部を合わせ109人ものかたが参加し、パネルディスカッションや意見交換が行われました。「学校ごとの格差が心配」「通知票が2回で成果が分らないのでは」などのご意見のほか、「学校週五日制を元に戻すべきでは」という厳しい意見もありました。
 この懇談会により、「二期制について見えた部分や疑問となっていたことも明らかになってきました。教育委員会では、今後、市民のかたのご意見も踏まえながら、「二期制の導入について、検討していきます」。

二期制に関する懇談会



ベネッセ未来教育センター所長・高岡玲治さん(元国立教育研究所企画調整部連絡協力室長)から二期制の現状とメリット・デメリットの説明が、平塚市立崇善小学校長・長本良光さん(平塚市二期制研究推進校校長)から、二期制を試行している学校の成果と課題の説明がありました。

学習実態調査

教育都市宣言の中の「児童生徒の確かな学力の育成」を目指して、市が独自に作った学習実態調査を1月14日(水)に市内の小学4年生と中学1年生を対象に行いました。教科は小学4年生の国語・算数と中学1年生の国語・数学。各学校が指導方法や指導体制を工夫・改善し、それぞれの子どもに応じたいきめ細かな指導をするためには、これまで以上に「わかる授業」を進める必要があります。そのためには、子どもたちの学習の実態を把握することが重要となります。

実態調査の結果を基に、各学校が教育課程の見直しを行い、学習指導を工夫・改善し、確かな学力の定着を図っていきます。

また、知識や理解などの基礎学力のほかに、学ぶ意欲や学んだことについて考え、判断し、表現する感受性豊かな創造力も伸ばしていきます。



不登校の解消に向けてリーフレットの発行

「一人一人の子どもたちに「生きる力」を培うためには、不登校児童生徒の解消に向けた取り組みも緊急で重要な課題の一つです。昨年6月には、リーフレット「不登校の解消に向けて」(3年間で不登校をゼロに)を合言葉に、このリーフレットは、不登校となった子どもたちへの学校からの積極的な働きかけや「居場所」づくり、不登校を出さない魅力ある学校づくり、関係機関との連携など、取り組みのヒントとなるものを紹介しています。

また不登校についての協議の場として、児童生徒指導協力者会議を開き、さまざまな立場で実践を重ねているかたがたから、具体策などについてのご意見をいただきました。



校舎リニューアルと学校の安全整備

●教育総務課

☎31673

改修後



改修前



今年度、市内小学校で行った校舎外壁改修工事

学校は子どもたちが安心して学ぶ場です。したがって、安全でより良い教育環境を整備していく必要があります。市では、子どもたちが豊かな心と生きる力をはぐくみ、健やかに成長するように、創造的な学びの空間を目指して、教育環境を整備していきます。
 また学校は地域に根ざした公共施設でもあることから、生涯学習や地域交流などの核としての役割を今後一層果たして、より開かれた学校づくりを目指します。

「地域で…」

生涯学習と青少年健全育成の 取り組み

◎青少年課 ☎331736

青少年健全育成対策本部

全国的に青少年が加害者や被害者となる事件が多発し、マスコミを騒がせています。特に昨年7月に発生した長崎市での中学1年生による幼児殺害事件は、世間を震撼させる大事件でした。本市が取り組む「静かなる教育論議」の「一つ井戸端会議」には、約8,000件を超える教育に関する意見が寄せられましたが、その1割強が青少年健全育成についての意見でした。



アーケロード東口での第1回街頭指導出発式後の街頭指導のようす

このような状況を受けて、市では、青少年が犯罪に巻き込まれたり犯罪を起したりしないように、関係行政機関や関係市民団体などと連携し、大人たちが温かく見守っていただくための「小田原市青少年健全育成対策本部」を設置しました。対策本部の活動は、街頭指導と有害看板などの撤去を全市挙げて一斉に行うもので、でもほかに例がないものです。街頭指導は、1月24日(土)から、月4回を基本に市内2か所の

重点区域(小田原駅周辺地区・川東南部地区)と12中学校区で行い、有害看板などについては、3月から月1回を活動日と定め、撤去活動を行う予定です。これらの活動が皆さんに理解され「青少年の健全育成は地域で」という気運が高まり、多くのかたが参加して青少年の健全育成がなされることを願っています。

子ども人形劇団 ニニコニコ

人形を作ることから公演までを子どもたちが行う人形劇団です。最初



から最後まで自らが参加することで、自主性や創造性、協調性などをよく養い、情操を豊かにします。劇団名「ニニコニコ」は、劇団員からアンケートを基に決めた名前ですが、「のびのび元気にいつも笑顔の劇団」であってほしい、との思いで命名されました。

市では、昭和59年からこれまでの20年間、「にんぎょうけきじよ」定期公演を、市内の人形劇団を中心に上演してきた歴史があります。子どもたちは、この地元人形劇団員有志による実行委員会メンバーの献身的な指導を受け、成長することができました。劇団員は、小学生13人、中学生4人の計17人が3グループで活動しています。

2月22日(日)の旗揚げ公演後、子どもたちは、これまでに勉強してきたものを十分に生かした喜びを満面の笑みで表現し、まさに人形劇団「ニニコニコ」の名のとおりとなりました。今後5月、8月と公演の機会があり、見る立場から芸術文化の担い手の立場として、さらなる上達を目標にみんながんばっていきたく張り切っています。



「土・日曜日の

子どもたちへ…」

学校が休みのときの子どもたちにも学びの機会が与えられるように、さまざまな取り組みが行われています。

ふれあい課外モデル事業

◎教育総務課 ☎331676

「英語で遊ぼう」「手作りおもちゃづくり」など、新玉小学校をモデル校にして、地域の人たちが、子どもたちのためにいろいろな講座を開き、交流を深めています。

子どもの学びサポート事業

◎学校教育課 ☎331684

子どもたちが二人一組で、ロボットづくりに挑戦し、完成後にロボット競



技大会を行う「ふれあいロボット体験in小田原」や、見たごとく感じたことを自分の言葉で表現して言語感覚を磨き、言葉への興味を高めて国語力の向上を図る「おもしろ国語教室」。

事前に考えさせる算数問題。を子どもに与え、それを基に、数学的な課題解決の仕方について、親子で楽しく学ぶ「おもしろ算数教室」などを行っています。



図書館子どもクラブや一日図書館員

◎かもめ図書館 ☎497800



図書館子どもクラブ（愛称・かもめっこ）は、前期（高学年・後期低学年）の毎月第3土曜日に、かもめ図書館で手づくり絵本の創作や高齢者とのふれあいなどを通して、また一日図書館員は、カウンター業務などを体験することで、図書への興味理解を深めています。

情報 de コラム 図書館ボランティア 「かもめ図書館フレンズ」 発会

◎かもめ図書館 ☎497800

かもめ図書館では、平成13年度から青いエプロンをつけた図書館ボランティアのかたに、ちよつとした空き時間を利用して、本棚の整理や児童図書コーナーの飾り付けなどをしていただいていたが、今年2月3日（火）に有志のかたが集まって、新たに「かもめ図書館フレンズ」を発会しました。

「知らなかった人同士が相談しながら、いろいろな作業をするのが楽しいです」など、45人の会員の皆さんが楽しく活動しています。皆さんも図書館ボランティアに参加しませんか？と新しい世界への扉が開けますよ。

「かもめ図書館フレンズ」会員登録対象 高校生以上 かもめ図書館開館日の9時〜17時に、月2回程度、1日2時間程度活動できるかた

活動内容 書棚の図書の整理、図書のカバー掛け・修理、児童図書コーナーの飾り作り、館外美化

開始時期 4月から4月に研修あり
申込 3月20日（祝）まで、かもめ図書館に電話または直接申し込み



「小田原市教育都市宣言 その3」

子どもたち、大人たちに願うこと

― 広報リポーターによる寄稿文 ―

教育特集「小田原市教育都市宣言！」の掲載にあたり、普段はまちかどに出てリポートをしていたいただいている広報リポーターのかたがたに、今回はそれぞれの教育への思いを文章にさせていただきました。皆さんはどう考えますか。

他人は信頼できるか、できないか

広報リポーター 横原英昭さん

あなたは、自分の子どもに「他人は信頼できる」と教えますか、それとも「他人は信頼するな」と教えますか。

昨年の秋の始まるころのことです。私は日課にしている散歩の帰り道で、下校してきた小学5年生の男の子二人と出会いました。私が「おかえり。運動会はいっ？」と尋ねたところ、二人は、まったく私が見たこともない冷めた目で私を見て、だまって歩き去ってしまいました。

「知らない人には口をきくな。知らないって言いなさい」。そのように教えられているのが目に見えます。しかし本当にこれでよいのでしょうか。確かにそんな世の中にしてしまつた

大人が悪いのかもしれない。しかし、世間には他人の信頼を得るために、命をかけた人も大勢います。もしこの子どもたちがそのまま大人になったら、日本の国はどうなるのでしょうか。私はとても不安に思います。もう一度、他人は信頼できると思える国にしたいものです。そのために、大人はまず、自分が信頼できる人になるよう努めようではありませんか。

マスキミのかたがた、信頼できないということばかり流さず、信頼できるいい話、ほつとする話を報道してください。よう願っています。



広報リポーター 佐々木美津子さん

夢、かなえるもの

市長随想

野猿

文 小澤良明

ほとほと困っていることがある。農村部だけでなく市街地にまで出没する野猿（ニホンザル）問題である。

決して可愛いとは言えない赤ら顔、異様な風体、群れていて行動は敏捷。それだけでも住民は恐れるのだが、その上敵は悪智恵に長けていて、農作物に甚大な被害を与える、農家に上がり込んで仏壇の供え物を喰ひ散らかす、商店の食品や人の持ち物を奪おうとする、女性や子供は弱いとみて威嚇したり、ひどい時にはひつかこうとすらする。まさに傍若無人、乱暴狼藉を尽す。

折しも今年はサル年。新春早々の広報委員長会議（各地区連合自治会長と市長、助役との会議で、深刻なサル被害について議論百出の呈となった。人に危害を加えかねないという懸念に始まって、間引き強行論、果ては断種、不妊手術にまで話は飛んで、結局いつもの通り「いやあ、困りましたね」とタメ息をつきあって終わる。

不真面目でそうなるのではなく、相手はなにせ生き物。動物学者や動物愛護論者の意見、直接の被害者である住民や農家の悲鳴、特に当の張本人、猿達の悪賢さ。いろいろ突き交ぜるとどうして良いのか、なかなか結論らしいものが出てこないのだ。





今はちやうど受験シーズンです。この家庭でも受験生がいるとヒリヒリするものです。何のための受験なのかそれは将来の自分のための大切な一歩です。偏差値で見られるのは嫌だという人もいるけれど、上を目指している人は頑張っている人もいます。

学校教育に望むもの、それは学習能力の向上とともに、不足しがちな知徳体のバランスも考えてほしいということです。それに今や国際化時代になっているので、教科書の勉強だけではなく、時代に対応できる能力も必要だと思います。「ゆとり教育」がありました。が、その望むものは何だったのでしょうか。

少年を森に戻そう

先日、依頼されて孫の小学校へ、昭和初期の遊びの記録を届けた。題して『遊びの才児記』。貧しい時代にも、子どもは皆遊びの天才だった。悪作もしたが、野山を駆けめぐった。

言いつくされたことだが、今、子どもたちは遊びの空間を奪われ閉じこもっている。あの「風の子」はどこへ消えてしまったのだろうか。

ノーベル平和賞候補となったボーイスカウトの創始者は、「少年を森へ戻そう」と主張している。大自然の中、野営に星を仰いで、遊びの創造こそ人間形成の第一歩と確信する。

小田原には天恵の自然環境がいっぱいある。観光資源にだけでなく、遊びの森を作って青少年の育成にいかした

う。学習能力の低下が目立ただけではないでしようか。読書にしても、読み聞かせをする時間が増えて、自ら読んで想像力を膨らませ、期待や感動をすることがなくなっているように感じます。幼いころに受けた感銘はとても強烈です。

今、中高一貫教育を望む人が増えています。少子化が進む中、公立では味わえない学校生活の充実があるようです。国民の三大義務の中にあるように、教育はとても大切な人間形成のための、また自分の夢をかなえるための積み重ねだと思います。



広報リポーター 友部省さん

いものである。子どもたちには、ゆとりの情操教育も欲しい。「文楽」がユネスコの世界遺産となった。当市には、同じ流れの道中座がある。人形浄瑠璃には人情の表裏を濃縮した教訓がある。江戸初期から関東大震災まで、当地には芝居小屋、桐座があり、一流歌舞伎役者の登竜門にもなった。伝統文化の継承、鑑賞の場としても、桐座の小ホール復活が望まれる。

寺の多い小田原には、かつて寺子屋という私塾の手習い塾があった。読み書きを通して道德修養の場となる、現代型寺子屋も出番と思う。



市町村境を越えて広域的に移動するからだろうが、行政所管は一義的には県である。しかしデータ！と一報あると、実際には、最先端で市民の安全安心を担う市職員が右往左往することになる。追っ取り刀で現場に駆けつけ花火や爆竹を鳴らしたり、ゴム弾を放って追い払いをしたりするぐらいが関の山なのだが、遺憾だがその都度、ただひたすら誠実に対応することしかできない。



西湘地域には五つの群れ、計百五十二頭が跳梁し、特に本市場を縄張りとするのは、S群四十頭、H群五十頭とされる。県内では、人の姿をみると逃げる「レベル1」から、人を恐れない、人を威嚇したりする「レベル5」まであるが、S群は何と最悪の加害レベル5、H群は3、4ということだ。始末が悪い。県や市、農協、自治会等が協力して、電気柵を設けたり最新電子機器まで導入して、さまざまな対策をしているのだが、根本的な解決策にはならない。本当にほとほと困っている。猿智恵に勝つ妙案、何かありませんか？

「ビジョン21おだわら」

市民提言会議から市長へ 提言書提出

市のまちづくりの基本的方向を示す総合計画「ビジョン21おだわら」。その後期基本計画計画期間…平成17年度～22年度に、市民のかたがたの意見を反映させるために設置した「ビジョン21おだわら」市民提言会議の提言書がまとまり、1月31日、市長に提出されました。

企画政策課 電話 331 239



「ビジョン21おだわら」市民提言会議は昨年7月6日にスタート。106人の登録メンバーが、分野ごとに6部会9分科会に分かれ、ほぼ週1回のペースで会議を行い、熱心な議論を展開してきました。

また、メンバー以外の市民のかたがたの意見を聴くため、フアクスやメールにより意見を募集し、検討の中間発表に対して意見をいただくフオーラムなども開きました。こうしてまとまった提言書は、総ページ数127、提言項目数353にも上っています。

提言書は、メンバーの見守る中、提言会議代表の小林章宏さんから小澤市長へと手渡されました。その後、各部会、分科会からの趣旨説明やメンバーと市長との懇談が行われ、この半年あまりの苦労やまちづくりへの熱い思い、今後に対する期待など、活発な意見のやり取りが行われました。

今後は、提出された提言書を踏まえて、計画案を策定する作業に入ります。そして、この素案を基に市民提言会議や市民の皆さんとのキャッチボールを重ね、さらに総合計画審議会の審議などを経て、平成16年度中には後期基本計画が策定されることとなります。これからも「広報おだわら」などで、随時進み具合などをお知らせしていきます。

※「ビジョン21おだわら」市民提言会議の提言内容は、小田原市のホームページでご覧いただけます。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/>

小田原 彩時記

やった、禁煙大成功！

健康づくり課 電話 47-0820

禁煙をしたいた

思っているかたを
対象に個別に電話
などで対応しな
がら禁煙をサポート



「禁煙チャレンジ2003」で、6人のかたが禁煙に成功しました。果敢にも自らが禁煙という試練を課した「勇者」たちは、昨年8月に講義を受け、9月に尿中のニコチン量と呼気中の一酸化炭素量を計測。個別面接を行ったあと、個々の状況に合わせて希望する方法（ニコチンパッチ・ニコチンガム・何も使わずにがんばる）で禁煙を開始しました。途中でくじけないよう、開始した1～2週間おきに、その後は1か月間隔で計5回ほど電話で保健師が支援。

1月には最後に全員が集まり、禁煙を成功させた七つ道具などを手に、喜びと苦労を分かち合いました。皆さんは「せきやたんが出なくなった」「ご飯が本当においしい」と笑顔。最後には医師から「たばこは安全基準が定められていない唯一の商品。これから人のために、自分のために禁煙を続けてください」とエールが送られ、それぞれが禁煙の継続を固く誓い合いました。

公的個人認証サービスが始まりました

戸籍住民課
33-1381

公的個人認証サービスとは？

国や地方自治体では、自宅のパソコンなどから、さまざまな申請や届け出などができる電子政府・電子自治体を実現しようとしています。

公的個人認証サービスは、インターネットを通じて行政機関などに電子申請する際に、電子証明書などにより、申請者が本人であることを明らかにし、申請内容が通信途中で改ざんされていないことを保証するサービスです。

この電子証明書の証明者は都道府県知事で、有効期間は3年間です。

電子証明書交付申請の方法などは？

電子証明書発行の受け付けは、市役所戸籍住民課で行います。

手続きの際に必要なもの

○住民基本台帳カード：電子証明書の情報をカードに記録し、電子申請をする際には、カードを使用します。

○本人確認ができる書類：運転免許証やパスポートなど官公署が発行した顔写真付きの書類。なお、お持ちいただいた住民基本台帳カードが顔写真付きの場合は、当カードのみで結構です。
発行手数料 500円（ただし、平成16年3月31日までは無料です）

※同時に住民基本台帳カードの交付を受けられる場合は、別にカードの交付手数料500円が必要です。

どのような申請ができますか？

現在、公的個人認証サービスを利用し、電子申請が可能な行政サービスは次のものですが、今後順次拡大される予定です。

○社会保険庁への電子申請
医療保険、年金など

○国税の電子申告
平成16年度から実施予定

○パスポートの電子申請
平成17年度から実施予定

住民基本台帳カードが身分証明書として利用できることをご存じですか？

写真付きのカードは、金融機関で口座を開設するときや携帯電話を新規購入する場合などに、運転免許証などと同様に身分証明書として利用できます。詳しくは、次のホームページをご覧ください。

○公的個人認証サービス

総務省ホームページ
<http://www.soumu.go.jp/c-gyousei/kohinshou.htm>

○住民基本台帳カード

総務省ホームページ
<http://www.soumu.go.jp/c-gyousei/daiyo/index.html>

○社会保険庁

社会保険庁ホームページ
<http://www.sia.go.jp/>

活断層と地震について 第4回

●県温泉地学研究所 33-5588

活断層は、地表に残された地震活動の足跡です。活断層は、その運動によって生じたずれが累積するため、平野など

の低地と山地との境目に断層崖を形成したり。例えば、足柄平野と丹沢山地や大磯丘陵との境目は、神奈・国府津・松田断層の運動によってできあがりました。

しかし、堆積層が厚く覆い被さっている地域では、その足跡が必ずしも地表には現れないことがあります。また、断層運動が深い場所でも発生した場合にも同様です。このように地表では確認

できない断層を伏在断層と言います。

例えば、1923年の関東大地震（大震災）の断層や近い将来発生するであろうと考えられている神奈川県西部地震にかかわる断層も地表では確認されていません。しかし、関東地震の場合には、地震波形記録や測量データなどから、断層の位置がおおよそ推定されています。また、神奈川県西部地震の場合には、江戸時代の資料や最近の科学的な調査から、いくつかの断層モデルが提案され、それを基に神奈川県西部地震が発生した場合の被害予測が行われています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/bosai/choosakakahi.htm>

では、このような地表に地震活動の足跡がない場合はどうしたらよいのでしょうか？小田原のように歴史的な資料がある場合は、その資料によって調査をすることができそうです。しかし、そうでない場合は、その地域で被害地震が過去にあったかどうか、また今後起こりそうかどうかを評価することは、大変難しい状況となります。

温泉地学研究所は、生活に深くかかわり合う地学的な現象を解明する研究をしています。毎月の地震活動のまとめなどは、温泉地学研究所のホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/0325/>



国府津—松田断層付近

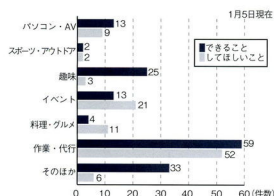
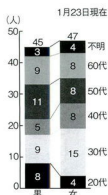
政策総合研究所通信

●政策総合研究所 ☎33 13 15

昨年11月から2月15日まで実験を行った「地域助け合いシステム・徳」100人を超えた実験参加者から、できること182件、してほしいこと121件の登録がありました。メニュー上では交換可能な項目が多数みつけられます。実際にはどんな分野で交換が行われたのでしょうか？

きっかけが生む交換、交換を生むきっかけ

頼み上手になろう！と始めた実験でしたが、きっかけがあると交換はスムーズに成立しました。とても一人では片づけられない笹藪、交流会での出会いから笹片づけに、山の手入れを行っている人たちを中心に「徳」の仲間たちも参加。森づくり団体の手伝いにも発展しました。



具体的な内容が分かれることが、交換への行動のつながりやすいようです。また初めての交換については、1対1よりも、団体からの依頼のように1対複数で、大勢と関わる方が安心感があったようです。

世代を超えた助け合いも

パソコンを始めたものの機械の設定が分からずに電子メールができない高齢の女性には、若い男性が操作を教えて交換が成立しました。またお手玉を作ってほしい子育て母には、祖母世代の女性が作り届けて交換が成立しました。参加者の得意分野での交換が世代を超えた交流にも発展しました。

それぞれの社会生活の範囲だけでは解決できないことも、その範囲を超えて情報を共有することで、必ずしもメニューにないものでも、交換がありました。さらにほかの「徳」の仲間をも巻き込んだサービス交換があり、助け合いにつながっていきます。

今回はチャンスのなかったかも

参加申し込みはしたものの実験中に依頼がなかったかたや、チャンスのなかったかた、連絡はとってみたいけど調整がつかなかったかたもいたようです。「期間が短かった」という意見もありましたが、実験が続けば実験がさらに活発になる可能性も見えてきました。

報告会とは3月26日

7月に始まった研究会は、夏に行った先行事例の視察、秋に山場を迎えた実験システムの議論を経て、11月～2月15日まで実験を行いました。参加者の募集を続けました

研究報告会

政策総合研究所平成15年度研究の報告会です。現在行っている二つの研究グループが発表します。

日時 3月26日(金)10:00～12:00
場所 市役所大会議室(7F)

- 「地域助け合いシステム・徳」…11月から2月15日までの実験に基づいた「徳」の課題と可能性について
- 「コミュニティ自治研究」…身近な地域の課題についての住民の動きや取り組みから小田原ならではのコミュニティ自治の姿・課題について

URL
http://www.city.odawara.kanagawa.jp/prio/
メール
prio@city.odawara.kanagawa.jp

「今、奮闘中！」

今後の仕組みに向けたアンケート調査・分析、記録簿の回収などを、意見を集約、改善を要することなどを分析。「徳」は知っていたけれど、参加はしなかったかたへもアンケートを行うなど、今回の実験の課題・問題点を探っていきます。

研究会では交流会や公開研究会や登録者名簿上での質問や意見を検討し、報告会に向けて必死でまとめ作業中です。助け合い「徳」の課題と可能性：詳しくは、報告会です！

が、終了間際まで、毎週途切れることなく問い合わせの電話、申し込みなどがありました。

一方で研究会では研究会会議のほか、交流会、公開研究会など研究員が参加者、興味を持ったかたと触れ、会話を交わす中からアイデアを得、システムに望まぬ姿、仕組みの広がりが見えました。

出土品が語る

小田原の歴史

市内の遺跡から数多く発掘され、当時の文化や生活のようすを今に伝える出土品の中から、特に重要なものを紹介してきた、このシリーズ。今回は最終回ですが、私たちが住んでいるまちの地中には、「歴史の証人」とと言える遺物が、まだ多く眠っています。今後も、新たに発掘された出土品などを、機会をうらえてご紹介していきます。ご愛読ありがとうございます。

文化財保護課 ☎33-1717



小田原城とその周辺では、現在までに200か所を超える土地の発掘調査が行われており、陶磁器や素焼きの土器、瓦などの膨大な出土品があります。こうした出土品は、それぞれの製作された年代が明らかで、時間を測る歴史のものさしといえます。小田原城とその周辺の遺跡は、この「歴史のものさし」である陶磁器などの検討を通して、検出された遺構の年代を決めています。

最終室
陶磁器に見る小田原の歴史



鍋島色絵磁器 蘭文皿 (内面)



(外面)



(高台)

小田原城を発掘すると、まれに優品と呼ばれる遺物が発見されます。そのうちの一つ、高級磁器の「鍋島」が語る小田原藩と鍋島藩の交流の一コマを紹介しましょう。

三の丸小学校の発掘

市立三の丸小学校は、江戸時代には小田原藩の藩校「集成館」があった場所です。小学校建設に先立ち、5,200㎡という広い面積の発掘が、平成5年1月から平成6年6月までの実に1年半の期間をかけて行われ、堀1、井戸25、方形の竪穴遺構11など多くの遺構が検出されました。64号土坑と命名された径10m、深さ1.8mを測る大型の土坑(穴)から大量の陶磁器が出土しましたが、その中に「鍋島」の破片が多く含まれていました。

鍋島焼

「鍋島」は、現在の佐賀県、肥前鍋島藩が将軍家や大名家などへの贈答品として精巧な磁器を藩直営で焼いたものです。一般には販売・流通していないもので、日本の陶磁器の中では、最も優美なものとしてその価値は極めて高いものといえます。怪談「番町皿屋敷」の中でお菊が割った皿は「鍋島」であったともされています。

64号土坑から出土した「鍋島」は、色絵皿、色絵小皿、染付皿、青磁皿など

各種あり、これらは18世紀前半の鍋島が最も完成され、美術品としての価値の高い「盛期鍋島」と呼ばれる時期の製品でした。色絵皿は口径七寸のもので、蘭の葉と茎を染付けで描き、赤い花を三本の茎にちりばめている絵柄で、裏文様は花唐草を配し、鍋島の特徴ともいえる高い高台には欄目文が描かれています。このほかにも桜の木と花を大胆に描いたものや、かたばみの上を舞う蝶を描いたものなどがあります。これらの鍋島は全て焼けて、破片になっていますが、同じ部位の破片数から本来は10客揃って保管されていたものと考えられます。

鍋島藩と小田原藩

鍋島藩7代藩主鍋島重茂は、明和2年(1765)に参勤交代により国元に帰る道中、病気で小田原に数十日も滞在することになりました。その際、小田原藩主大久保忠由に大変世話になり、そのお礼として陶器その他を進上した、という記録があります。64号土坑から出土した鍋島がこの記録と直接関係するかは明らかではありませんが、このような契機で、小田原に鍋島がもたらされた可能性もあります。

「鍋島」は全国的に見ても長崎、京都、江戸など当時の大都市から出土していますが、小田原のような地方都市からの出土例はほかにありません。こうした点からも貴重な発見であったといえます。



鍋島染付磁器 桜樹文皿

「心豊かに共生する高齢社会」最終回

シリーズでお届けしてきた心豊かに共生する高齢社会。住み慣れた地域で世代を超えて暮らしていくため、各地で行われているいろいろな取り組みを紹介してきました。今回はその最終回です。

◎ 高齢介護課 331841

高齢者を地域で支えるということ

「住み慣れた地域で暮らしつつつた」との思いは、長年その地域で暮らし



酒匂8区では、地区の有志のかたが在宅福祉サービスに加わり、見守り活動や昼食会での健康チェックなど、高齢者を孤立させないための活動を行っています。



富水地区社協による健康クラブ

てきた高齢者にとって大きな願いといえるかもしれません。高齢者が安心して生活するためには、家族を始め、近隣住民のかたがた、自治会、社会福祉協議会（社協）、民生委員、ボランティアといった地域全体で高齢者を見守る力が必要です。

地区社協の体操教室や夏祭りといった地域社会への参加、また、子どもとの世代間交流もコミュニケーションが不足しがちな高齢者にとっては大事なことです。そういった地域ぐるみでの取り組みが増えてきています。

超高齢社会で暮らしていくには

やがて迎える65歳以上の人口が21%以上となる超高齢社会。自分はどうやって暮らしていくのだろうかとう不安になるかたも多いかもしれません。

「ひとり暮らしで急に体の具合が悪くなったらどうしよう」「誰が介護してくれるのだろうか」。そのような不安をなくするためには、介護保険サービス、介護予防サービスを上手に利用するだけではなく、高齢となっても健康で生きがいを持ち、積極的に地域に関わっていくことが求められるのではないのでしょうか。

心豊かに生活できる
共生社会を目指して

やがて老いを迎える若年者は、高齢者が長年培った知識や経験を生かすことができれば、より地域の高齢者を見守り、高齢者自身も介護予防に努めることはもとより、地域社会の一員であるという認識を持つ。このようにお互いが尊重しあい、年齢に関わりなく住み慣れた地域で暮らしていくという共生の考えが広まっています。

心豊かに暮らせる共生社会は、一人一人の力で築いていく社会です。それはお互いの理解・尊重により、形成され広がっていくでしょう。

小田原 彩時記

県境を超えて
「SKY広域圏」(富士箱根伊豆交流圏)の
市町村長が一室に



1月27日(火)、スパウザ小田原・現・ヒルトン小田原リゾート&スパで、第4回富士箱根伊豆交流圏市町村サミットが行われました。このサミットは、静岡(S)、神奈川(K)、山梨(Y)3県の市町村が、富士山周辺、箱根の山・湖・伊豆の海・高原といった恵まれた自然環境などの魅力を最大限に活用し、県境を超えた広域連携を進めるうえでの課題などを協議するためのもの。34の市町村長のほか、3県の知事も出席しました。

会議では、今年度の会長である小



木村ふみさんプロフィール
海外でローレルデザイン、テーブルセッティング、カラーコーディネートなどを学ぶ。国内外の本ホテルや旅館などのコーディネートをはじめ、2000年には九州「梅サミット」の司会・主催の企画委員・幹事職のテーブル装飾企画制作に携わり、食環境プロデューサーとして活躍。2000年の経済産業省・伝統工芸産業審議会委員、産地プロデューサー

小田原の木製品から食空間を考える

「食と木のセミナー」を開催！



◎産業政策課 33 15 15

小田原には、恵まれた豊かな自然と長い歴史の中ではぐくまれてきた伝統の技術があります。

今回、全国的にも有名で、優れた地域産品の木製品を活用した新たな取り組みとして、中央公民館と小田原地下街を会場に、コーディネートに食環境プロデューサーの木村ふみさんを迎え、「食と木」をテーマにしたセミナーとイベントを開きます。

①中央公民館

日時 3月6日(土)12時～17時

場所 中央公民館

内容 セミナー

テーマ「暮らしを彩る食・器・花」講師 木村ふみさん

◎「第8回M&D」あなたのウッドクラフト展」表彰式

◎小田原産の器・食材などを用いた食空間(テーブルコーディネート)の展示

◎モクチャー作品・小田原木製品の展示
※事前申込は終了しましたが、当日席もご用意しますのでぜひお越しください。(立ち見席の場合もあります)。

②小田原地下街

日時 3月5日(金)11時～20時

場所 小田原地下街

内容 小田原漆器、箱根寄木細工を中心とした展示販売。3月6日(土)・7日(日)には、小田原木製品の美演・体験・即売会を行います。

澤小田原市長が議長を務め、活発な意見交換が行われました。
会議の最後に、広域的な連携により、観光をはじめとしたさまざまな交流による地域振興・活性化を図っていくため、サミット宣言が採決されました。

全国梅サミット開催！



曾我の梅の里では、恒例の梅まつりが大賑わいを見せました。

今年の梅まつりでは、梅の里を持つ市町村が集う「全国梅サミット」が小田原で初めて開催。2月5日の別所会場には、静岡県熱海市や茨城県水戸市をはじめ、12市町の首長らが出席しました。

富士を望む白い梅花に囲まれて、梅を生かした観光や産業振興などについて話し合いがもたれ、将来に大きく夢が膨らむ会議となりました。

平成15年11月1日号「輝く小田原人」で紹介した相模人形芝居中座の文化財指定50周年記念自主公演。

日時 3月14日(日)12:30～(開場12:00) 場所 中央公民館ホール ☎43-0956 岸

「定石」を捨てる勇氣

呉さんが来日したのは14歳のとき(昭和3年)。当時危険な空気さえあった日中関係にあって、日中親善を目的に、中国で囲碁の天才と呼ばれていた呉少年来日本に招いた。呉さん来日に尽力したのは犬養毅元首相。呉さんはその後、才能をいかに発揮し、日本の棋界に革命をもたらした。今では「囲碁の棋成」と呼ばれ、囲碁の世界では呉さん知らない人はいないとまで言われている。その名声はとまるところを知らず、中国では呉さんの一代記を描いた映画の撮影計画が進行中である。呉さんの話には、囲碁の枠を超えた未来へのメッセージがあふれていた。

棋士 呉清源さん

囲碁という名の掛け橋

囲碁はもともと中国で生まれました。最初は宇宙の天文を観測する道具だったそうです。勝負を競うようになった



中国で囲碁を指導する呉さん

のは、ずっと後になってからのこと。今では囲碁も国際化して、世界のあちこちで楽しむ人が増えています。

日本に発つ前、中国では日本行きに反対もされました。来日後しばらくはいろいろ苦労もありました。しかし今では日本に来て本当に良かったと思っています。現在の中国と日本の関係は良好で、多くの人がお互いに行き来しています。私はこれからも囲碁を通じて少しでも日本と世界の国々との掛け橋になればと思っています。これは私の終わることのない使命なのです。棋士としての現役は引退しましたが、100歳までは頑張るつもりです。

定石に思う

囲碁の決まった手順や型を「定石」と呼びます。初心者が囲碁を学ぶのに一つの方法としてはいいですが、定石にあまりこだわらずに考えるのは考えものです。中国では囲碁は文化として提えられていますが、日本では少し勝ち負けにこだわらずに感じる感がありますね。中国では古来、詰碁の名作が作られていて、日本にも伝えられています。定石は部分的の得失です。

私たちは今、次代を担う人材を育てなくてはなりません。常識にとらわれない、広い視野を持った人間を育てる必要があるのです。そのためには、あえて「定石」を捨てる勇氣が必要なのではないでしょうか。もはや政治でも経済でも文化でもすべてにおいて、世界のことを考えてい



呉さん来日の9年後の昭和12年には日中戦争が勃発。いかに苦難に満ちた時代の来日であったかがうかがえる。扇子の文字は「六合」。六合とは天・地と東・西・南・北の六つ。中国では宇宙を意味する。(小田原の自宅にて)

小田原と夢

縁あって小田原に住まいを持ったのが昭和30年。その後、仕事の関係もあって東京にも住まいを持つようになりました。友人には小田原の家を売るようアドバイスもいただきましたが、私たちが夫婦はこの家を手放しませんでした。なぜなら60歳を過ぎたら二人で小田原に落ち着こうと決めていたからです。今でもこちらの家には月に1週間ほどしかいられません。小田原の生活をとても楽しんでます。近い将来、東京で開いている私の囲碁研究会を小田原に移そうと計画をしています。

東京に住んでいる子どもたちも、私たちが小田原に来ると、決まって泊まりにきます。彼らもまたこの家が大好きなのです。



中国を走る列車の中で